

## 地方公会計の整備促進に関するワーキンググループ（第9回）

### 【開催日時等】

- 開催日時：平成21年12月22日（火）14：00～16：00
- 場 所：総務省8階国地方係争処理委員会室
- 出席者：森田座長、経塚委員、小室委員、菅原委員、金原委員、  
田中委員、野村委員、シティグループ証券アナリスト江夏氏他

### 【議題】

- (1) 地方債市場から見た地方公会計
- (2) 地方公共団体における財務書類の活用と公表について（案）
- (3) 総務省方式改訂モデル向け作業用ワークシート記載要領改訂版（案）

### 【配付資料】

- 資料1 「地方公共団体における財務書類の活用と公表について」骨子案
- 資料2 「総務省方式改訂モデル向け作業用ワークシート記載要領改訂版」骨子案

### 【概要】

- アナリスト江夏氏から「地方債市場から見た地方公会計」について説明
  - ・ 財政健全化法の施行等を受け、投資家が発行団体の財政状況を意識する傾向にある。
  - ・ 公的セクターの制度が民間から見て馴染みづらいことなどから市場が過剰に反応することが多い。ヘッドライン・リスクの軽減に公会計を含めたディスクロージャーやIRが寄与する。
  - ・ 投資家を対象としたアンケートの結果、地方債の投資にあたっては、財政状況、ディスクロージャー及びIRの姿勢が重視されているといえる。
  - ・ 民間会計に類似する財務書類が作成されることは、発生主義に馴染みのある投資家から歓迎される。整備が完了した後は、団体間の比較可能性及び利便性が求められる。

### （出席者からの主な意見・質疑等）

- ・ IR等で財務書類を活用した場合、投資家はどのような点に着目すると考えられるか。
- 地方債発行団体がいかにキャッシュ・フローを創出し、債務を安定的に返済していくことができるかが重要。そのうえで将来負担比率やバランスシートなど連結の概念を含めたものに着目すると考えられる。

○ 事務局から資料1の説明

- ・ 「財務書類の分析」、「財務書類の内部管理への活用」及び「公表」から構成。
- ・ 「財務書類の分析」では財務書類そのものから読み取れる情報をまとめるとともに、資産形成度や世代間公平性などの6つの視点から、想定される住民等のニーズをもとに、既存の財政分析指標を踏まえながら財務書類の指標を整理する。
- ・ 「財務書類の内部管理への活用」では、自治体の実情に応じて、どのような活用ができるかを具体的な事例を用いて記述する。
- ・ 「公表」においては、公表の対象、具体的な様式及び事例を用いて分かりやすい公表の手法を示し、公表の方法と時期について記述する。

(出席者からの主な意見・質疑等)

- ・ IR資料等として活用する場合に、財務書類の信頼性がいかに担保されるかが重要。
- ・ 公表時期についてはある程度弾力性をもたせるとよいのではないか。
- ・ 財務書類の分析部分で、財政力という視点と指標の関連性を整理する必要があるのではないか。

○ 事務局から資料2の説明

- ・ 総務省方式改訂モデル向け作業用ワークシートの記載要領について、モデルの体系的・理論的な理解促進に資するものとなるような解説を加えることを目的として改訂作業を行う。
- ・ 改訂にあたっては、現行の記載要領に総論（理論編）を加えて、発生主義や複式簿記の考え方、資産評価及び税収の捉え方等の基礎的な事項について解説し、各論においては、各勘定科目に定義とともに、それぞれに簡単な事例を用いてどのように複式仕訳がなされるかを追加する。
- ・ さらに、各科目に関係する会計方針、注記事項及び附属明細表についても科目ごとにまとめる。

(出席者からの主な意見・質疑等)

- ・ 複式仕訳の事例については、簿記の7要素を前提として考えるのであれば、その旨の説明が必要となる。

○ 今後の予定

- ・ 次回は2月頃の開催予定。